

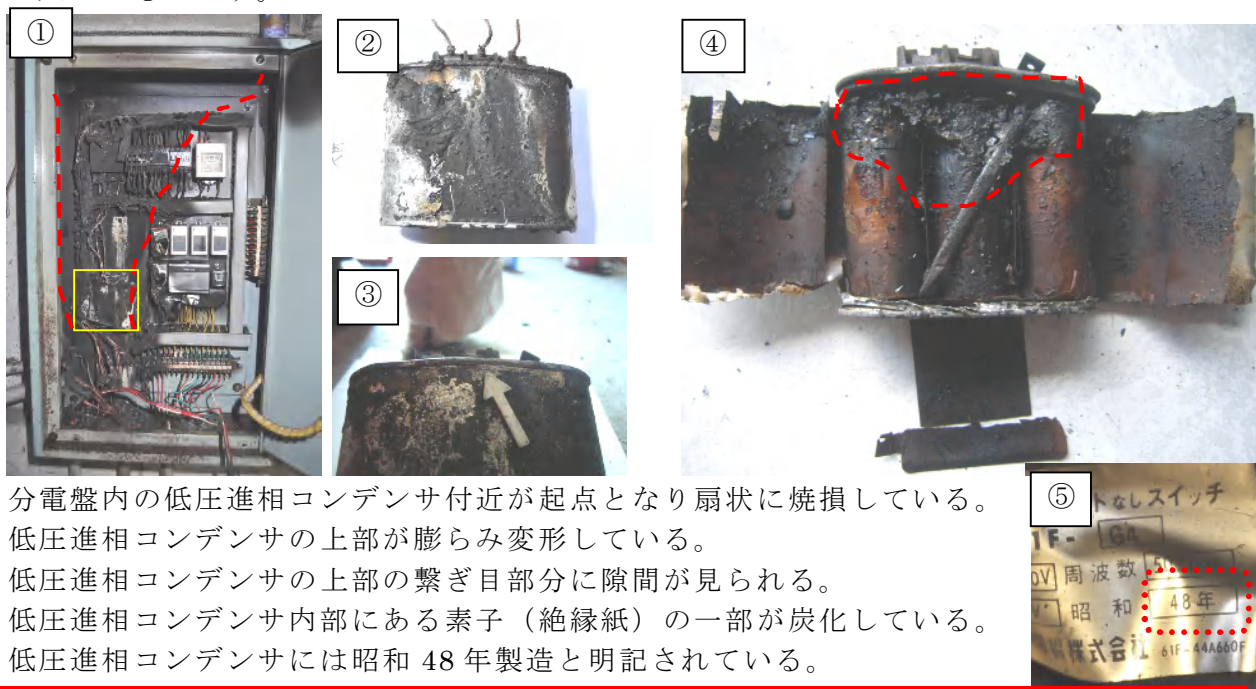
低圧進相コンデンサからの出火事例

火災概要

複合用途対象物の1階ポンプ室において、分電盤から出火し、周囲の電気配線の一部が焼損した建物火災で、近隣者が煙を発見しすぐに119番通報されています。なお、初期消火はされておらず、自然鎮火していたものです。

原因概要

本件火災の原因は、分電盤内に設置されている低圧進相コンデンサが経年劣化により、絶縁性が破壊され、内部の温度が上昇し、絶縁油から分解ガスが発生して発火したものです。



- ① 分電盤内の低圧進相コンデンサ付近が起点となり扇状に焼損している。
- ② 低圧進相コンデンサの上部が膨らみ変形している。
- ③ 低圧進相コンデンサの上部の繋ぎ目部分に隙間が見られる。
- ④ 低圧進相コンデンサ内部にある素子（絶縁紙）の一部が炭化している。
- ⑤ 低圧進相コンデンサには昭和48年製造と明記されている。

長年使用している「低圧進相コンデンサ」は発火の危険性があります！！

低圧進相コンデンサとは、工業機械、業務用冷蔵庫等モーター等を使用する電気機器の力率を改善する省エネルギー機器として、1940年(昭和15年)後半より店舗や作業所で使用されています。

しかし、1975年(昭和50年)以前に製造されている低圧進相コンデンサは経年劣化により寿命の域にあり、場合によっては火災に至る危険性があります。

また、低圧進相コンデンサから出火する火災は、梅雨の時期から気温が上がる9月にかけて多発し、殆どが、経年劣化により低圧進相コンデンサ内部の絶縁性が無くなり出火しています。

「低圧進相コンデンサ」による火災を防ぐためには・・・

- ① 昭和50年以前の古い進相コンデンサの使用を、保安装置内蔵の新しい物に交換する。
- ② 新しい進相コンデンサでも推奨更新期間は10年ですので、定期的な点検をお願いします。
- ③ 業務用冷蔵庫等のように常時通電が必要なもの以外は、できるだけメインブレーカーを切り、進相コンデンサに電圧がかからないようにする。
- ④ 進相コンデンサは他の電気機器と違って、故障等が分かりにくい為、使用電力量が異常に上がっているときは、低圧進相コンデンサ等の点検を行なって下さい。

・・・**火災が発生した場合は、直ぐに消防(119)へ通報してください。**・・・